# 応募にあたって知っておいて欲しいこと

応募にあたっては、所属先(地方競馬場の厩舎)を決めてからでも、あるいは決まっていなくても構いません。しかし、大切な人生の目標としてこれから進む道ですので、競馬社会を良く理解して応募して下さい。

## １　騎手という職業

騎手は、プロのスポーツ選手です。2 年間でプロの道を目指し、フェアでプレーする精神を身につけます。馬に騎乗する技術だけではなく、公正に実施される競馬のルール、規則を守れる人間でなければ騎手にはなれません。また、馬に乗る職業ですが、競馬社会の人と人との仕事でもあります。挨拶や礼儀礼節、上下関係等、今までの生活よりもずっと厳しくなります。そういった社会に身を置き、日々精進し続けることができる人が勝ち残っていける世界です。

## ２　体重調整

騎手にとって体重を調整することは最も重要なことの一つです。当センターでは教育期間中、個人差はありますが 2～4 kg増加しますので、各々の騎手候補生に対し、年齢区分毎に規定体重を指定し、修了時の規定体重 49.0 kgに設定しています。

騎手候補生は、栄養管理された毎日の食事以外に、自主的に体を動かし、プロの騎手として通用する体づくりを目指しています。

## ３　候補生の１日の流れ

当センターの起床時間は午前 5 時半。午前中に 3 頭の実技訓練と、午後から騎手に必要な教養を得るため学科の授業があります。その内容は法規、馬術、馬学、調教、管理、衛生と多岐に渡り、プロスポーツ選手を目指すためメンタルトレーニングや、体の使い方を習得するためフィジカルトレーニング、武道（剣道）を通して礼儀作法を学びます。

## ４　修了生の感想文から（一部抜粋）

◆第 106 期騎手候補生（令和 7 年 3 月修了）

2 年前、入所してからは辛いことが多く辞めたくなることもたくさんありました。最初の 1 か月間は慣れない作業に追われ、騎乗もうまくできず、叱られることが多く精神的にも肉体的にもとても苦しかったです。また、馬に蹴られて 2 週間乗れない時期もありました。非常につらかったですが、教官や同期の支えがあり頑張れました。また、旅行やキャンプ、2 週に 1 回の外出もすごく息抜きになりました。

競馬場実習では今まで管理されていた中での生活から、体重や時間などすべて自己管理をしなければならなくなり、教養センターや寮の食事のありがたさをすごく感じました。現役馬に乗る難しさや、開催日、非開催日の流れ、人間関係などすべてが貴重な経験になったと思います。

実習から戻ってくると、今まで乗りこなせなかった馬にも乗れるようになり、嬉しさと達成感を非常に感じました。

2 年間本当にいろいろありましたが、つらい経験も楽しい経験もいい思い出となっています。

家族や同期、訓練馬や教官の先生の支えがありここまで頑張れました。今後も今まで以上に苦しいことや悩むこともあると思いますが、今までの経験を活かし日々昇進していきたいです。

◆第 106 期騎手候補生（令和 7 年 3 月修了）

この 2 年間楽しかったことや辛かったことなどいろいろありました。入所して１番つらかったのは今までずっと一緒だった親と離れることでした。寂しい思いを持ったまま１か月くらいはがむしゃらに過ごしていました。１か月ほど経ち慣れてきたころに、日光旅行があって、気持ちの余裕が出てきたのを覚えています。

技能審査では初めて自分自身の実力を順位付けされて悔しい思いをしました。そこからは、上手な人や教官の乗り方を見て研究したり、自分の騎乗を毎回確認してもらったりして姿勢や動かし方を必死に勉強しました。

競走騎乗が始まると自分自身の下半身の弱さを痛感させられ、下半身トレーニングをひたすらしていきました。

競馬場実習では騎乗はもちろんですが、挨拶や礼儀について、教養センターで沢山の指導を受けていたおかげで、厩舎の環境にも自然に溶け込んでいけました。入所した時から教官はすごく厳しかったですが、今では凄くありがたかったなと感じています。

実習が終わりセンターへ戻ると免許試験の勉強などがあり、毎日忙しくあっという間に過ぎました。この期間は人生で一番勉強をしていたと思います。

今、修了を迎えようとしていますが、この２年間で何よりも人間的に成長できたと思います。家族や先生、訓練馬たちが僕をここまで支え育ててくれました。そのおかげで僕は夢のスタートラインに立とうとしています。この恩を何倍にもして返せるくらいの騎手になります。